

製造設備 異常監視システム

製造ラインの
異常を検知し、
自動でタグ付け

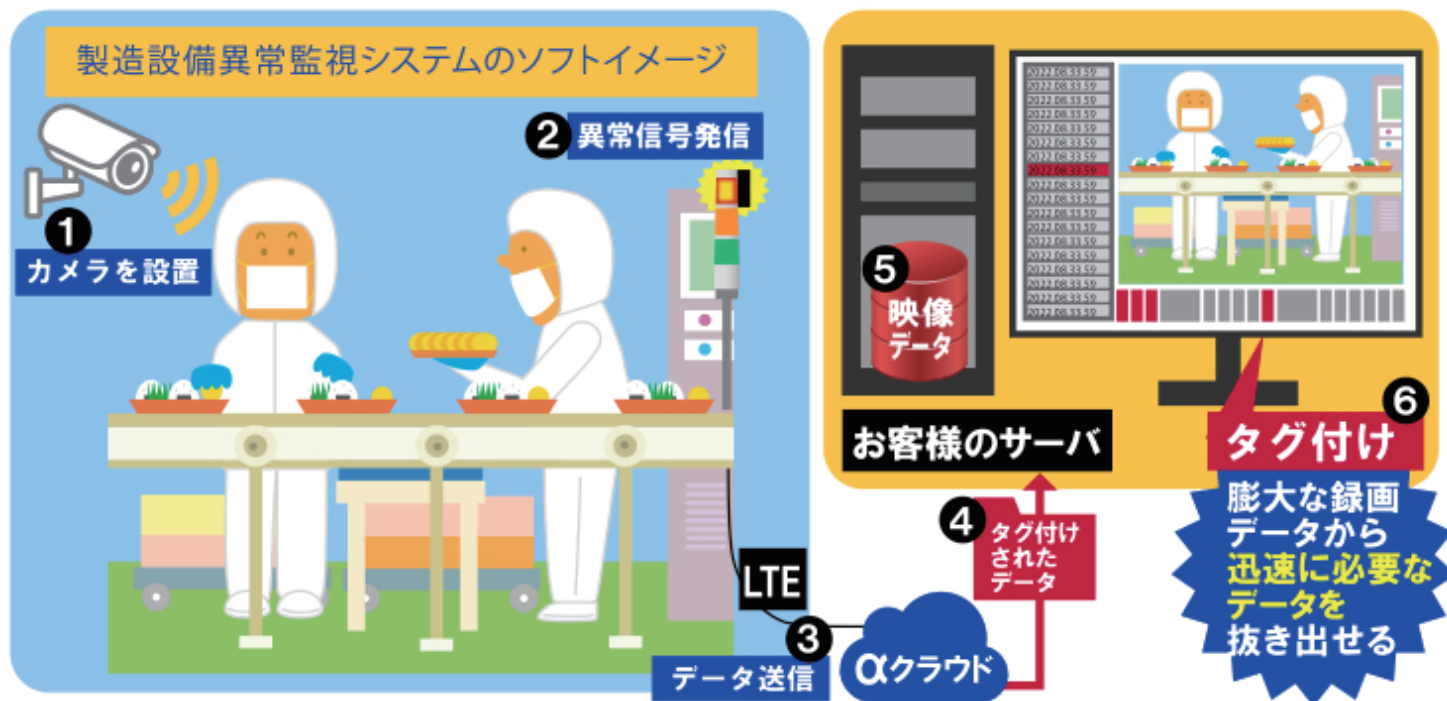
様々な製造工程に関する
異常検知を行うことができます。

製造ラインの管理は、
商品の安全性やお客様の信頼を得るために、
非常に重要です。

万が一、不良品が出た場合、いつ、どこで、
どれだけの不良品がでているのかを特定し、
即座に商品の回収や再発防止を行えるかが、
企業がお客様から信頼を得て、
被害を最小限に抑える『鍵』となります。
当社の『製造設備異常監視システム』は、
製造設備から異常信号を検知した場合、
異常を検知した録画データに自動的に
タグ付けすることで、
膨大な録画データの中から、
必要な映像を迅速に入手可能です。

■ 製造設備異常監視システムのイメージ

※例として食品製造でイメージを作成しています。



【製造設備異常監視システムの流れ】

- 1 製造ラインに監視カメラを設置
- 2 異常検知時に、製造設備から異常信号を発信
- 3 LTE でデータ送信
- 4 αクラウドでLTE データを受信後、『製造設備異常監視システム』でタグ付けを行いデータを送信
- 5 お客様のサーバーでタグ付けデータを受信後、映像データと共にタグ付けデータを一元管理
- 6 検知された商品の異常内容を速やかに確認

【製造設備異常監視システムの重要性】

- ① 顧客・取引先の品質保証の条件を満たすことができる
- ② 対外的にアピールができ、取引先・顧客からの信頼を得られる
- ③ 不良品やトラブルを最小限に抑えられる
- ④ 業務内容を整理することで、各工程の見える化ができ、作業効率向上

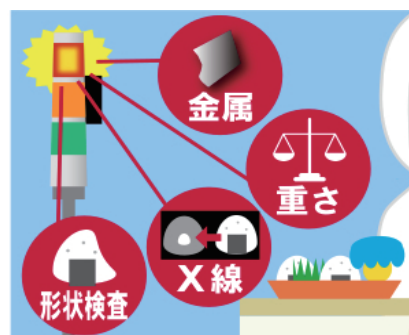
製造設備異常監視システムの機能

異常信号：タグ付けの要素

異常信号を発信する要素は、次の様なケースです。

【タグ付け要素の一例】

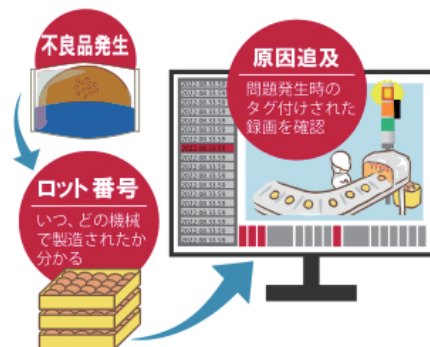
- 金属検査
- ウエイトチェッカー（重さ）
- X（エックス）線検査（中に混入物、空洞がないか）
- 形状検査（仕上がりの形が変形していないか）
（製造内容によりタグ付けの要素は異なります。）



『製品のロット番号』と『製造ライン監視システム』

万が一、製品の中で不良品が発生した場合、いつ、どの工場、どの機械から製造されたものなのかが『ロット番号』から大まかに把握することができます。

また、異常信号を検知した場合、『製造設備異常監視システム』がその時間の録画映像に自動でタグ付けを行います。



膨大なデータの中から必要な箇所をスピーディーに確認

監視カメラによる録画は、機械やラインの各工程に及ぶため、その記録データは膨大な量となります。その膨大な記録データの中から即座に異常ポイントを見つけ出すことは非常に困難です。当社『製造設備異常監視システム』を利用することで、システムが自動でタグ付けした異常発生前後の映像を確認することで、迅速、かつ正確な原因追求を行うことができます。



■ご不明な点は、お気軽にご相談ください。（デモなどもよろこんでご対応いたします。）

 **ALPHA アルファシステム株式会社**

〒990-0828 山形県山形市双葉町1丁目10-8
TEL/FAX : 023-645-9591 / 9593
E-mail : info@alsys.co.jp